

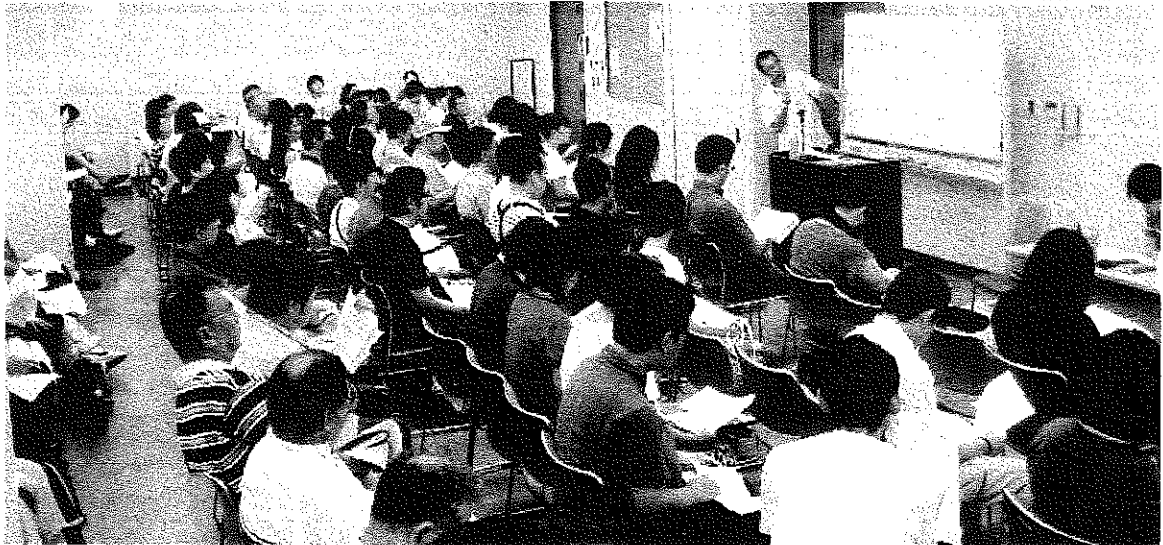
ゆいのもり通信

2009 No.16

2009年10月1日発行
 ゆいのもり編集委員会
 昭島市田中町1-19-4
 TEL042-545-5451

ゆいのもりの新体系事業移行

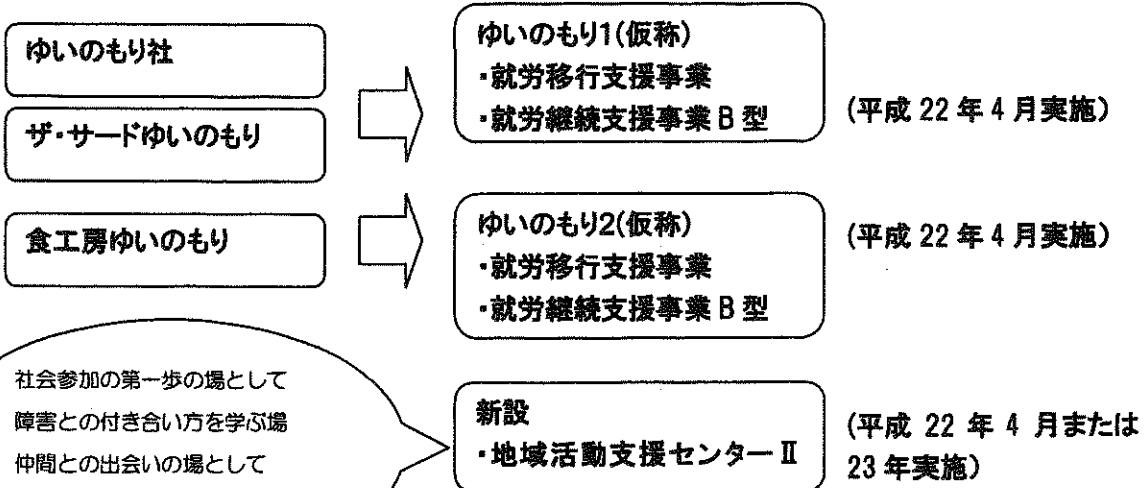
～8/6全メンバーミーティング開催報告～



8月6日、昭島市あいぼっく（保健福祉センター）にて新体系事業移行の予定と内容について説明会が開催されました。ゆいのもり社、ザ・サードゆいのもり、食工房ゆいのもりの3施設のメンバーの多くが集まり、106名を数えました。

予定する新事業の説明後、活動内容、利用期限、利用料についての質問が多く出され、通い続けることができるのかという不安を表明する方もありました。現時点での、利用希望事業は以下となります。10月か11月には、再度、メンバーおよび家族対象の説明会を開催する予定です。

【移行案】



社会参加の第一歩の場として
 障害との付き合い方を学ぶ場
 仲間との出会いの場として
 ふさわしい役割がある場として

【事業ごとの希望者】 就労移行支援事業 39人 就労継続支援事業B型 74人

活動の基本となる「リカバリー」という考え方

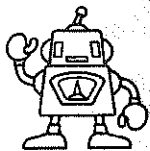
8/21・22日に開催されました「リカバリー全国フォーラム2009」に参加し、大きな刺激を受けました。

リカバリーとは何でしょうか。「統合失調症などの重い精神の病を持っていても、人は立ち直ることができます。人として尊重され、希望を取り戻し、社会に生活し、自分の目標に向かって挑戦しながら。かけがえない人生を歩むこと、それが『リカバリー』です。」(マーク・レーガン)。

アメリカのビレッジでは、「メンバーと呼ばれる利用者が、スタッフと一緒にリラックスして自分の目標を決め、治療プログラムや活動を決め、自分自身のニーズと好みにあった自分用のリハビリテーション・プログラムを作成しています。メンバーは、住宅、レクリエーション、教育、仕事、ピアサポート(仲間の支援)、金銭管理、継続的治療と支援、家族教育、地域活動などから、複数のサービスを組み合わせ、自分のためのリカバリー計画を立てるのです。」(ロバート・ポール・リバーマン「リカバリーへの道～日本の友に贈る言葉」より)。

「WRAP」紹介のHP (<http://www.mentalhealthrecovery.com./jp/aboutus.php>)に「リカバリーに効果的に取り組むために大切な5つ」が紹介されています。希望、自分で責任を持つこと、学ぶこと、自分をアドボケートすること、サポート。リカバリーとは希望と責任を持って、苦勞したり、幸せ感じて自分らしく生きていくことと私は理解しました。

浅川 勤



Q&A ここが知りたい4月からのゆいのもり

Q. 就労移行支援と就労継続支援の

違いはなんですか？



A. ひとことで言うと、一般就労をめざす人を対象とするのが就労移行支援事業、おもにここで長く働きたい人を対象とするのが就労継続支援事業です。

●就労移行支援事業の期限は2年もしくは延長して3年間です。就労に必要な知識や技術を学び、訓練を行います。通常の作業のほかに、就労のための研修プログラムを受け、力がついてきたら、一般就労に向けてハローワークや障害者職業センターなどの関係機関とも連携して支援します。

●一方、就労継続支援事業は、一般企業での就労が困難な人に、期間の制限なく働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために、必要な訓練を行います。

利用料にも違いがあります。



Q. 利用料について(工賃は今までどおりか?)

A. 就労移行支援事業・就労継続支援事業を利用すると、利用料が発生します。

利用料は1日につき、就労移行支援事業は760円～850円

就労継続支援事業は530円～590円

しかし、負担上限額があります。たとえば、区市町村民税が非課税の方(収入が障害年金のみの方など)は月額負担上限額は1500円です。ほとんどの方がこれに該当します。

●利用しているサービス・施設・個人によって多少ちがいます。

工賃は今までどおりになると思います。



Q. 作業内容は変わりますか？

A. 変わりません。今までどおり食工房（ゆいのもり2）はパン作り、カフェの営業、施設外作業のピップ。ゆいのもり社（ゆいのもり1）はあいぼっく内清掃作業、花壇管理、ワックス清掃、ボール洗いの内職、施設外作業のピップ。ザ・サードゆいのもり（ゆいのもり1）は市役所内喫茶森の営業です。今まで慣れた作業を続けることができます。

Q. レクリエーションや行事はどうなりますか？



A. 今までどおり3施設合同の旅行やスポーツ、各施設のお出かけ行事等変わらずにやっていきたいと思えます。



Q. 個別支援、相談や通院同行などの

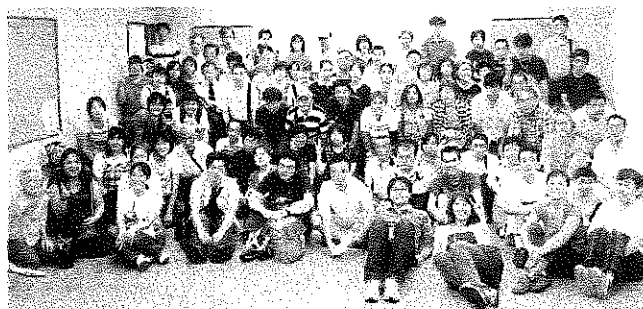
マンツーマン支援はしてもらえますか？

A. 自立支援法では、ひとりひとりの利用者に対して、担当する職員が定期的に、病状、生活の状況、将来の希望などをお聞きして、利用者本人とともに「個別支援計画」を作成し、それに沿って支援することが義務づけられています。ですからこれまで以上にきめの細かい支援体制となります。また必要に応じて、相談、通院同行、関連機関との連絡など、マンツーマンの支援も行います。

Q. 利用の手続きはどうしたらいいですか？



A. 住民票のある区市町村に、利用したい事業の受給者証を申請します。認定調査等を受けて、受給者証が交付されたら、ゆいのもりで利用契約を結びます。
注意！ 現在、ゆいのもりを利用されている方は、手続きが必要になったら職員が知らせますので、それまでは手続きをしないでください。



食工房ゆいのもりはパン菓子製造販売、カフェ、物流センター内作業、室内作業を行う通所授産施設です。

カフェ、リニューアル 研修室も増設!

食工房では「東京都障害者自立支援基盤整備事業（以下、基盤整備事業）」の補助を受けて、2008年12月から2009年1月にかけて、1階のカフェ、工房の改修および2階研修室の増設を行いました。この「基盤整備事業」とは、障害者自立支援法に基づく新体系事業への円滑な移行推進のために、東京都が施設の改修等に要する経費を補助するもの。新体系事業におけるサービス基盤の整備を図ることを目的としています。

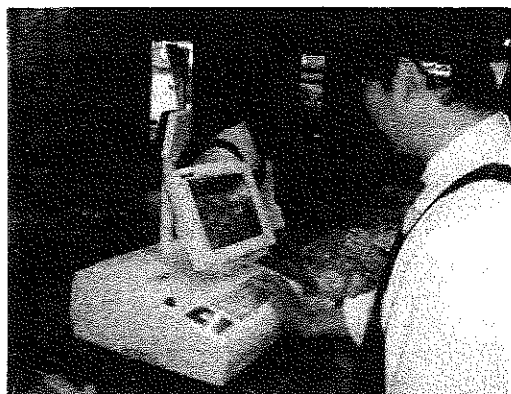
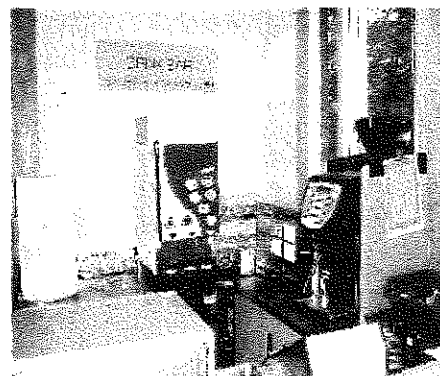
2010年4月からの新体系への移行をにらみ、お客様に喜んでもらえる店をめざすために、カフェ、工房の改修を行う一方、移行後は頻繁におこなわれるであろうメンバーの研修やプログラムなどの実施のために、研修室の増設に踏み切りました。



■■ パン販売コーナーとカフェの改造 ■■

●**パン陳列台** お客様がパンを選びやすいように、パンを陳列する台を広くとり、トレーを置いて移動できるスペースも作りました。お客様にも好評です。

●**ドリンクバーコーナー** ドリンクを飲まれるお客様が自由にお飲み物を選んでいただけるコーナーです。大人280円、小学生以下150円で、何杯でもお替わり自由です。お客様連れのお客様などにも好評です。

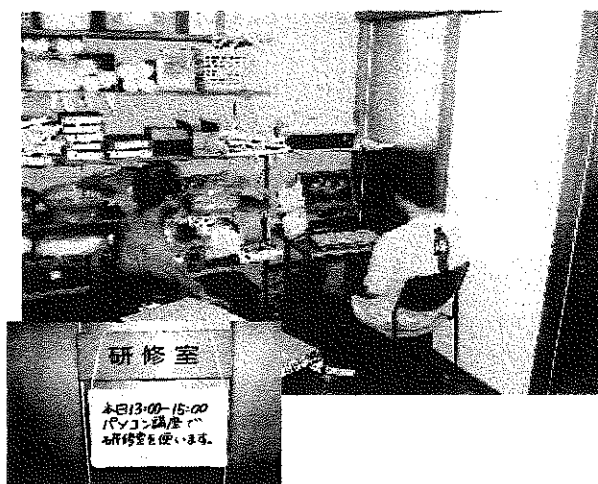


●**レジスター** これまでのレジと違い、パンの品名や価格がすでに打ち込んであり、タッチパネルを押すだけで合計金額が出るので、より使いやすくなりました。レジ打ちで手間取ることない、スムーズな接客をめざします。

●このほか、客席の足元に暖房が入ったり、カウンター席の上にペンダントライトが灯るなど、店の雰囲気も少し変わりました。また店舗の正面にテントを貼り出して、「営業中」をアピールしています。ドウコン、ミキサー、ラベルプリンターなどもこの事業で購入し、作業がより円滑に行えるようになりました。

■■ 研修室 ■■

2階の休憩室の一部を分けて、パソコン教室や面談のできる部屋を作りました。音が外に漏れないよう、天井まで壁を立ち上げ、エアコンを設置しました。現在、週2日、パソコン講座で研修室を利用している他、面談や内職作業などでも利用しています。





人生の失敗

K. M

今年の2月に一般就労を始めたのですが、職場での人間関係や、通勤時の幻聴などで悩み、7月のはじめに退職してしまいました。15回ぐらい面接をして、やっとみつけた仕事だったので不本意なのですが、やむをえませんでした。今は作業所に通っています。今の感覚だと、もう就労は無理です。結局、障害者であることがネックで、どこに行ってもダメな感じです。私はヘビースモーカーなので、そのことも職場の人達に指摘され、ストレスにつながってしまいました。仕事したいは単純なデスクワークが中心でしたので、さほど辛いものではありませんでした。過去にも何社か勤めたことがあるのですが、いつも自ら退職してしまいました。どうしても根気よく長く勤めることが出来ません。今は私が住んでいるアパートに2人同じ障害を持った友人がいます。彼らとつきあうことで、精神のバランスを保っています。今は障害者の中だけで暮らしていく方が気楽です。歳を重ねても、消える症状もあれば新たに現れる症状もあって、薬に頼るしかありません。

せめてもの救いは、先の選挙で民主党が勝ち、障害者にやさしい政治をやってくれるかもしれないことだけです。自分では何も出来ない状況ですので、政治が私にとって良い方向に進んでいってほしいものです。

始まりからその先へ

Paladin

ゆいのもり社には、去年の2月から通っている。通うにあたっての理由は、当時欲しかった物を何か努力をした結果で手に入れようと結論を出してからすぐだった。

当初は、対人関係や通い続けられるのか？という強い不安が常にあった。

通い始め利用者の人から“一緒にやろう”と誘われていた清掃作業を始めてみたが、大変な事とも苦にも思わず、常に皆と作業していて面白いと感じている。

今は作業を通じて不安を感じないで世間話が出来る人が増えた。

月の作業回数は、職員の方に体調的な事を節目ごとに相談をしながら徐々に増やし、週に一度のピップ作業も始め続けている。それから約一年経ったが、一度も作業を休まずに通い続けている。

その経過から、ゆいのもり社を紹介してくれた地域活動支援センターの担当職員の方からグループホームの紹介を受けた。

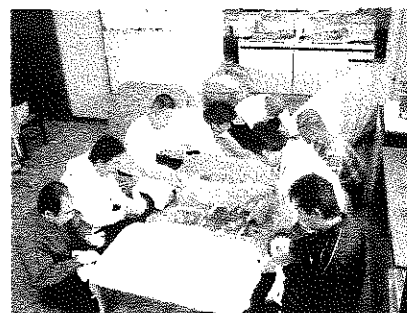
正直、今すぐにでも住んでみたい街に引っ越したかったり、実家で過ごしていて、強く感じるストレスから逃げ出したい気持ちが強かったが、実際に一人暮らしを始めてみて、やらなければいけない事に対して悪い意味でのストレスは一切無い、でも実家に居た時ほど意欲的ではなくなると、変化を実感している。

ただ、持て余している自分の時間で、すぐには結論は出ないけど、失敗をしながらも、常に誰かに相談をし意見を求め、その意見を自分につき合わせて、いろんな角度から見つめ考えて、少しずつ出来る修正をしながら、将来どういう風に自分自身でしっかりと立って前を向いて進んでいこうかと、不器用ながら自分探しに考え始めている。

内職作業募集中！！



ゆいのもり社では室内で行う作業が少なく困っています。今まで行ってきたものは、スプーン入れ、封入、紙袋製作、シール貼り、紙折りなどです。納期が比較的ゆるやかで簡単な仕事がありましたら、ぜひご紹介ください。



ゆいのもり社

TEL 042-545-5451



ザ・サードゆいのもりのページ

「サード通所歴まる6年！」 ペンネーム Aさん

サードでは、いろんなシフト（仕事）を任されてきましたが、昔はよく「勝手にやらないで」と言われたものです。そのうち、その意味が分かってきて、サードでは、社会勉強をさせてもらっています。

私はサードに行くと、小児科の混んだ待合室みたいに落ち着かなくなり、ペラペラおしゃべりが止まらなくなってしまうのですが、どうやらそれは病気持ちです。周囲のメンバーがそれでもあたたかく見守ってくれるので、“ペラペラ病”も、非常識も自分勝手も、最近おさえられるようになりました。おかげさまで。



ゆいのもり「グループカウンセリング」をはじめました。

この会は、自分の悩みを話したり、他人の悩みを聴いたりしながら、「自分の感じ方や考え方、ふるまい方はこのままでいいの、それとも直してみたほうがいいのかな」……など、自分自身のことを整理・確認ができる場です。

今年の5月から毎月1回、ゆいのもり全施設に呼びかけて、あいぼくで開催しています。毎回10～15人ほどの参加者があります。会の前半部は、自己紹介やウォーミングアップがわりのゲーム、心理学・精神保健福祉講座などを、会の後半部は、テーマにもとづいて、みんなで輪になって話し合います。たとえば、8月は「みんなの休日の過ごし方、コンディションの整え方を知りたい」「“こうありたい”自分と今の自分とがちがう……」というテーマで、時間をはるかにオーバーするほどに白熱した話し合いをしました。

この会に参加している理由を参加者にインタビューしてみました。

「心理学が好きなので」

「たくさんの人たちがいるところに慣れるため」

「仕事だけできてもダメなんじゃ……と思ったから」

「“こんなとき他の人はどういう考えなんだろう” “どうしているんだろう” とか、参考にしてみたかったから」

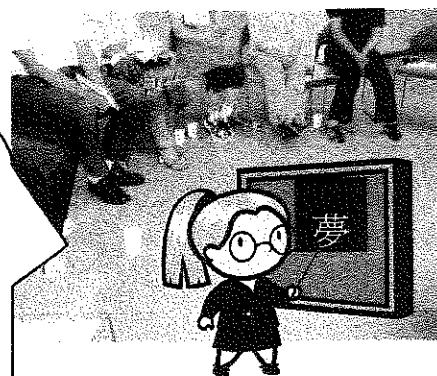
「病気のこととか障害者に対しての社会のしくみとかを知りたかったの」

「障害者だということを忘れないうため、この会でつながりをもつつ、病気が悪化するのを阻止したいから」

「ひとりよがりにならずに、人に助けてもらおうと思ったから」

「来たときより帰るときに気分がよくなっていますように」を合言葉に、みんながそれぞれ傾聴するカウンセラーとなってお互いにエールを送り合う、とてもあったかいGive & Takeな場所です。なお、この会で話したことは、口外できないルールになっていますので、どなたでも安心して参加することができますし、見学席も用意しておりますので、興味があればいつでも覗きにおいでください。

お問い合わせは、 ザ・サードゆいのもり TEL042-542-6776



喫茶森では、切手・はがき・収入印紙の販売もしております。不動産業など、収入印紙を大口で購入されるお客さまがいらしたら、ぜひとも喫茶森をご紹介してください。お電話にて事前にご予約の上、翌日以降に喫茶森にて受け渡しいたします。

TEL 042-544-5111
(内線 2995)



統合失調症の方のご家族のための

昭島家族の集いに参加してみませんか！



昭島家族の集いは、2007年10月に始まり、今年の10月で丸2年がたちます。昭島市内在住、在勤の精神障害（統合失調症）のご家族を対象として、精神保健福祉の支援者も関わりながら、毎月集っています。現在会員は25人となり、毎回10名程度のご家族が参加しています。

家族の近況や病気や症状に悩んだり不安になる気持ちを率直に語り合い、同じ経験に共感し、情報交換もできる場として活動を続けています。

日時：月に1回 午後2時～4時

※場所、時間等変更する場合がありますので、初めての方はお電話ください。

場所：昭島市保健福祉センター（あいぼっく）1F 視聴覚室

対象者：統合失調症のご家族の方・原則として昭島市在住、在勤の方

会費：毎回、会の運営費一世帯 100円 お茶代 一人 100円

申し込み：虹のセンター25 電話042-549-7733 ※申し込みは1週間前まで

問合せ先：

☆ 社会福祉法人きょうされん 虹のセンター 電話042-549-7733

☆ 障害者相談支援センター 電話042-513-5456

☆ 昭島市生活福祉課障害福祉係 保健師 電話042-544-5111

昭島家族の集いに参加して

昭島の関係スタッフにあたたかく見守られて、あっという間に1年が経過した「家族の集い」のメンバーの一人です。

家族の集いに参加して、当事者も家族も苦労しながら、それぞれの立場で日夜戦っていることを実感しました。「家族の集い」の話をわが家の夕食時、話題にすると、子どもも自分の意見・体験をゆっくり確認しながら話をしてくれます。

精神疾患はやっかいな病気のようにです。金銭面・異性・人との付き合い等、そこから生じるストレスに対して、限りなく脆弱です。回復には「医療機関」だけでは、不十分で「理解ある家族」と「地域福祉ネットワーク」がバランスよく支えあうことが、必要不可欠だと痛感しております。

昭島家族のつどい 代表 池田 正

今回はひとり暮らしの練習のためにゆいのもりのメンバーも利用している（利用していた）グループホーム「太陽と風」の紹介です。

グループホームって、どんなところ？

～～ ひとり暮らしを始める前に、グループホームへ！ ～～
 ～～ 個室で生活しながら、必要な時には援助が受けられます！ ～～

家から独立して地域で生活してみたいと思った時、いきなりひとりで暮らすのは、ちょっと不安だと思っているあなた。病院から退院したい時、アパートを探したり、食事やお金の管理がうまくやれるだろうか、心配しているあなた。

そんなあなたに、住まいの場を提供し、困った時は世話人が相談にのったり、応援をしたりする所が**グループホーム**です。

グループホーム「太陽と風」「太陽と空」には、現在12室のバス・トイレ付きの個室があります。食事・服薬・金銭について自己管理しながら、自分のライフスタイルで生活することができます。昼間は、授産施設や作業所に通って仕事をしたり、将来、就労を目指している人も居ます。

交流室では、メンバー同士で交流したり、夕食会をしています。

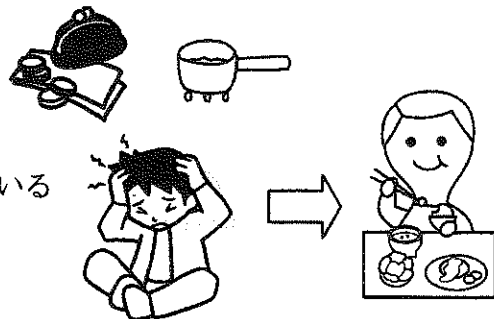
メンバー募集が始まります

《利用できるのはどういう人ですか？》

- ・ 通院・服薬ができる
- ・ 自分が希望し、家族や主治医が賛成してくれる
- ・ 紹介者（通所先の職員・病院のケースワーカー等）がいる
- ・ 日中は就労、作業所、デイケアなどの通う場がある
- ・ 日常生活を維持できる収入がある

《申し込みはしたら良いですか？》

募集要項ができたからお知らせしますので、職員さんと見学にいらして下さい。詳しい事はその時に説明します。



精神疾患をもつ方とご家族の 地域生活ガイドブック

昭島版

主な内容

- 休養する所、退院する準備立ち上げ
- 近くの精神科クリニックと関係
- 昭島市の福祉窓口、家族の働き
- 食むところ
- 服薬援助
- 置寮するところ
- 家族の手伝いをしてもらえるところ
- 昭島の支援→障害者、生活支援
- 病ごき後の財産管理と各種契約の手続き



地域生活ガイドブック(昭島版)作成しています

市内で精神障害者の地域生活を支援する関係機関が集まって「精神部会」というグループを作っています。

精神疾患にかかった時、病気に対する情報もわからなければ、どこに相談すればよいのかもわからない。そんな、家族からの声をもとに、地域生活ガイドブックを作成することになりました。

ガイドブック作成は昭島市の障害福祉計画にも含まれるため、印刷製本は市が担当し、内容は精神部会が担当するという協同事業で進められています。

編集後記

今回は、自立支援法にもとづく事業体系への移行特集号です。政権が変わり、現在計画していることが、状況により少しかわることも考えられます。利用者の皆さんが、安心して楽しい地域生活がおくれるようになることを願っています。(智)